

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

▼  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念をもとに、ホームの中でその人らしく暮らし続けることを支えてゆく事業所独自の理念として、「利用者様ひとりひとりの立場に立って支援させていただきます」を職員間で考え実践している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間の話し合いの際、理念の再確認をしている。また、玄関等に掲示し、職員全員が常に自覚できるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	外出や散歩時等に、元気な笑顔で挨拶し、コミュニケーションをとっている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出等出掛けた時には、積極的に声をかけている。又、地域の花火大会には地域の方を招待し一緒に見学する機会を設けたり、繭玉作り等の伝統行事も近隣の方に指導していただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会の見学、中学生の社会体験学習の受け入れ、地域の作品展への出展、地域の合同清掃活動への参加等を行っている。また、運営推進会議には地域の老人会長に参加して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いや取り組みをしていない。		自治会、老人会等と話し合いを持ち、出来る事を取り組んでゆきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での改善事項については、すぐに職員間で話し合い、より良い方向に改善できるよう努力している。また自己評価については、常に課題を持って業務に取り組めるよう、職員会議時等に説明したり、話し合ったりしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、グループホームの責任者、利用者及びご家族、地域代表の方を交え意見交換をし、サービスの向上に向け話し合いがもたれている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の合同清掃活動に参加している。		市町村と連携を図りながら話し合い、出来る事を検討してゆきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度については、職員研修のなかで学習している。また、成年後見人の必要な方には、NPO法人三松会との話し合いのもとに利用していただいている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、虐待が見過ごされる事のないように注意を払っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約書の内容を詳しく説明すると共に、十分に納得して頂いた上で契約を結んでいる。入居後も不安や疑問点は無いかな尋ねたり、生活状況等の報告を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に関する窓口を、ホーム内、公的共に設置している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常の様子は面会時にお伝えしたり、利用料の請求書に手紙や写真を同封したりしている。体調変化等のあった時は、その都度電話等で、報告、連絡、相談を行っている。また、利用者様のお小遣いをお預かりしているので、その内容を小遣い帳に記入し、御家族に確認して頂き印をいただいている、</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に関する窓口を、ホーム内、公的共に設置し苦情が寄せられた場合には速やかに対応策を検討し、サービス改善に努めている。又、御家族の面会時に意見を聞くようにし、苦情になる前に解決できるように努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議時に、意見や提案を聞く機会を設けている。また、日々の業務の中で感じたこと等、率直に言える職場の雰囲気をつくっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の生活の流れを支援するために支障のない、ローテーションを組んでいる。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を必要最小限に抑える努力はしているが、異動や離職のあった時は、利用者様へのダメージを防ぐよう、慣れた職員が対応するようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修はそれぞれの段階に応じ、その内容は研修報告書ファイルからいつでも誰でも閲覧できるようにしている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>敷地内のグループホームでは交流の機会を持ち、相互訪問等を行いサービスの向上につとめている。また、他施設にも見学に出かけ、意見交換等を行っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>悩みやストレスはないか、何でも話しやすい職場の雰囲気づくりにつとめている。また、法人での職員旅行や忘年会、歓迎会等、職員相互の親睦を深める機会を設けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年二回、目標管理シートで自己評価、上司の評価及び面談を行い、各自が目標を持って働けるよう努めている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に自宅や入院先に出向き、面談するようにしている。また、本人の話を聞く機会を積極的に持ち、気持ちを受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>よく聞く機会を設け、受け止める努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況に応じてリハビリの通院の支援をしたり、利用者様とご家族が、まず必要としている支援をしてゆけるように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度でも見学に来ていただき、ホームの雰囲気や職員に馴染んで頂くように努めている。入居後も御家族に面会に来ていただいたり、外出の協力をして頂いたり、安心感を持って徐々に慣れて頂けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護者と利用者様という関係だけでなく、時には家族のように接している。また利用者様から学ぶ事も多く、お互いに支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者様の状況や状態を報告し、御家族と相談しながら対応している。共に悩んだり、喜びを分かち合ったりしながら、より良い関係作りに励んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様や御家族の話をよく聞き、家族関係の把握に努めより良い関係が保たれるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの深い場所や人との関係は、御家族を通じて途切れないように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共通の話題を提供したり、レクリエーションや散歩等を通じてコミュニケーションをとれるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、必要に応じてお手伝いさせて頂く努力をしている。例えば、御家族の希望で特養に入所したがなかなか環境に慣れることができない場合等、慣れて頂けるまでは日中はグループホームで過ごしていただく、等の対応をしている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、御家族の要望を聞き、ニーズを把握するように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、利用者様や御家族から、これまでの生活歴等を細かく聞き取りをして、その把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの暮らし方や生活歴をふまえ、ひとりひとりの生活のリズムの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、面会時などに御家族に生活歴や要望、趣味等を聞き、介護計画を作成している。また、日々の観察によるスタッフの意見等も参考にし、プランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間にとらわれず、利用者様に変化のみられた時や定期採血検査の結果、主治医より受診の指示や生活上の留意点等の指導のあった時には臨機応変に見直しをしている。また、グループホーム内での出来るケアをスタッフ間で話し合い、計画に加えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分摂取の状態もケース記録に書き込めるよう工夫している。また、その中の気づきや工夫をスタッフ全員が共有できるよう決定事項は、連絡帳に記入したり介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族の状態に応じて、通院サービスを行ったりと、臨機応変な対応ができるよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の作品展に出品したり、小、中学生の慰問や体験学習の受け入れ、消防署の職員の指導による消防訓練の実施等、地域資源を活用している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科受診、理髪等のサービスを利用する為の支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働はしていないが、運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されるので、その時に権利擁護やケアマネジメント等についてわからない事などは聞いている。		今後、必要に応じて協働してゆく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族が希望している医療機関があれば、御家族の協力のもと受診できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医、協力医療機関を確保しており、利用者様が安心して治療が受けられるように医師との関係を築いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム内に看護師が勤務しており、常に利用者の状態等を報告、連絡、相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	御家族や入院先の医療機関とは、常に連絡をとりあい話し合いをしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から、利用者様や御家族の希望に応じられるように話し合いを行っている。また、重度化した場合、御家族の希望があれば、同法人内の特養への入所も対応している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医や看護師、御家族との連携と、チームとしての支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者様、御家族とは十分な話し合いを行っている。また、住み替える先の代表者、ご本人にかかわる保健医療福祉関係者と情報交換を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者様の誇りやプライバシーを損なわないように、さりげない介助や言葉かけを心掛けている。また、個人情報の取り扱いについては、十分な注意を払うよう職員に徹底している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自らの希望の表出や自己決定ができるように、利用者様本人が選ぶ場面を作っている。また、個々の状態に応じた説明を行いながら、自然と自己決定できるように配慮している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様個々のペースを尊重し、利用者様の希望を取り入れながら、毎日の生活が送れるように支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一ヵ月に二度特養に訪問理美容師が来園するので、希望があればカットやヘアカラー等を行っている。また、行きつけのお店がある利用者様は、そこを利用できるように御家族と調整をするなどして支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>可能な限り、食事の準備や後片付けを利用者様と職員と一緒にできるよう努めている。季節の食材を取り入れたり、行事食や希望食も取り入れている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者様の健康状態を考慮しながら、可能な限り楽しめるよう支援しているが、管理能力が不十分な利用者様に対しては職員が管理している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の状態にあわせて排泄の支援を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的には週三回の入浴を行っているが、その日以外でも利用者様の希望がある時は、希望に添えるように努めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>安心して気持ちよく休めるように、日中はできるだけ体を動かすように支援している。また、お部屋のレイアウトや照明、温度湿度も調節して安眠確保に努めている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>御家族からの情報、情報提供書などから生活歴を把握し、利用者様の得意とすることを生活に取り入れ、楽しめるように支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には利用者様と御家族の了承を得たうえで、ホームで一括して管理している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的に散歩や畑での野菜の収穫、外食、ドライブ等、屋外に出かける機会をつくっている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>日帰り温泉、一泊旅行、各種芸能の鑑賞会等、利用者様の楽しみとなるよう企画し、実施している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望に応じ、電話利用等の支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂けるような、暖かい雰囲気作りに努めている。面会時には、居室でゆっくり話したり、他の利用者様も一緒に食堂で過ごしたりと、面会者と一緒にリラックスして過ごして頂けるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全ベルトの着用、つなぎ服の着用、居室の施錠等の身体拘束のないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員がひとりの時以外は、玄関の鍵はかけないで対応している。職員がひとりの時は、外部からの侵入者を防ぐためと、利用者様がひとりで外にでてしまうことの防止策として、玄関に鍵をかけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	姿が見えない時はさりげなく所在を確認する等、プライバシーに配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態をよく見極め、物品の管理をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職場内研修を行い、事故防止について学び、取り組んでいる。対策を職員全員で検討して、今後事故が起きないように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時、急変時等に備え、看護講習を行っている。連絡体制も定期的に話し合っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施している。また、敷地内の提携施設と近隣者には、緊急応援を依頼してある。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故を未然に防ぐために、ヒヤリ・ハット報告書を活用している。また、起こりうるリスクを想定し、御家族に説明し対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日状態観察をしており、変化のあった時は他の職員、看護師への報告を徹底している。体調不良者が出た時は、別紙に詳しく記入し、情報を共有できるように努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職場内研修などで薬の作用、副作用に関する講習を行い職員が理解できるように努めている。また、処方箋ファイルを作成し、いつでも確認できるようになっている。また、医師の指示どおり服薬を行い、常に症状の変化の確認を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日10時に牛乳とプルーンを召し上がって頂いたり、食物繊維を多く含む食品や水分を十分に摂取して頂けるよう気を配っている。また、毎日の生活の中に散歩や体操を組み込み、体を動かせるよう配慮している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自歯の方も義歯の方も毎食後に歯磨きをしている。義歯の方は毎日夕食後にお預かりし、ポリデント消毒をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーは献立表に記載されており、食事摂取量はおおよそ把握している。水分摂取は毎回チェックをし、体調不良等で食事、水分の摂取量が減少している時は、細かく摂取量を記録し対応を検討し実施している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザは毎年職員、利用者様ともに予防接種をしている。また、感染症予防対策マニュアルがあり実行している。マニュアルは職員がいつでも閲覧できるようにしてある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は毎日掃除をし、調理器具も消毒をしている。食材は毎日新鮮な食材が届き、安全管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りには植木がたくさんあり、恵まれた環境の中で生活して頂いている。四季折々の花を、花壇や玄関まわりのプランターに植え、玄関のすぐ外にはベンチを置き利用者様に自由に出入りして頂いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンになっているため、食事の匂いや調理の音を感じ取って頂ける。また、季節の花を活けたり、畑の野菜を収穫したりと、季節感のある生活を提供している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角にソファを置いたり、和室を利用したりと、居心地よく自由に過ごせる空間を確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れたタンスやベッド、装飾品を持ち込んで頂き、安心して過して頂ける居室作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、その日の温度により冷暖房の調整をしている。居室、食堂には温湿度計も設置しており、冬季は特に湿度にも注意をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの中の各場所には手すりを設置している。浴槽内には滑り止めマットを使用し、浴槽の高さは一般家庭と変わらない高さに設定してある。必要な箇所に手すりを設置することにより、安全に留意しながら自立した生活を支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	御本人の写真を居室前に飾ったり、トイレに手作りの表札を掲示したりと、親しみやすくわかりやすいものにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには花壇やプランターがあり、手入れを一緒にしている。玄関の椅子では、日向ぼっこをしたりお茶を飲んだり、季節にあわせた活用ができる。また、落ち葉掃き、草むしり等、ご自宅にいた時と同じような生活の場面もみられる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

恵まれた自然環境をいかし、散歩や外気浴等出来るだけ戸外に出て体を動かす事を大切にしています。敷地内に特養、デイサービス、グループホーム等の併設施設があり、いろいろな行事を合同で開催するだけでなく、日常的に「ご近所付き合い」のような感覚で行き来をしています。法人全体の今年度の介護のスローガンである「早期発見 即対応」を実践してゆくために、「ひとりひとりの立場にたって」という事をグループホームいこいの郷の理念とし、利用者様一人一人の状態を職員全体が理解し、一人一人の望む生活の実現に向けて支援しています。